

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>本学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って124単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、学士（心理学）または学士（社会福祉学）の学位を授与します。</p>		<p>本学科では、その教育理念、ディプロマ・ポリシーに基づき専門性をもった教養人および専門人を養成するため、以下の方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成します。</p> <p>1. 専門的な知識や方法論を体系的に学ぶために、基礎教育科目、専門教育科目を学科科目として設置します。自らの専門領域や分野だけでなく、幅広く関心ある科目を履修して国際的、学際的な視点を養うことを推進します。</p> <p>2. 論理的思考力、問題解決力、コミュニケーション能力、課題探求力、表現能力、など、現代社会において必要となる社会人基礎力を習得するために、全学年で実践的な講義や演習を実施します。</p> <p>3. 習得した知識やスキルを活用し、問題解決とこれまでになかった事を創造していく能力を育成するために、卒業論文を必修として、社会的意義がある論文を作成します。</p>	<p>本学科は「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な次に掲げる知識や技能、意欲を備えた女性を求めます。</p> <p>人を支援することに高いモチベーションを有し、認定心理士や社会福祉士・精神保健福祉士、福祉レクリエーション・ワーカーなどになったり、これらに必要な資質や能力を高めたりすることによって、豊かな社会の実現に貢献しようとする者を受け入れます。豊かな社会の実現に貢献するためには、あらゆる場面で知識を活用し思考する力を問われます。したがって、文系・理系という狭い枠にとらわれず、国語、英語、地理歴史、公民のほか、数学、物理、化学、生物といった科目をできる限り幅広く履修し、確かな基礎知識を備えておくことを求めます。</p>
1. 知識・理解	1-1	心理学に関する基礎的・専門的知識を有している。	<p>人を支援することに高いモチベーションを有し、認定心理士や社会福祉士・精神保健福祉士、福祉レクリエーション・ワーカーなどになったり、これらに必要な資質や能力を高めたりすることによって、豊かな社会の実現に貢献しようとする者を受け入れます。豊かな社会の実現に貢献するためには、あらゆる場面で知識を活用し思考する力を問われます。したがって、文系・理系という狭い枠にとらわれず、国語、英語、地理歴史、公民のほか、数学、物理、化学、生物といった科目をできる限り幅広く履修し、確かな基礎知識を備えておくことを求めます。</p>
	1-2	社会福祉学に関する基礎的・専門的知識を有している。	
	1-3	レクリエーション学に関する基礎的・専門的知識を有している。	
2. 技能・表現	2-1	科学的な視点に基づき、様々な課題の解決に心理学の専門的知識を統合し活用できる能力を有している。	
	2-2	人と社会との関係を理解し、様々な課題の解決に社会福祉学の専門的知識を統合し活用できる能力を有している。	
	2-3	自らの考えを他者に伝えられるコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を有している。	
	2-4	他者との円滑な関係を構築し、それを維持しながら多様な人々と協働することができる。	
	2-5	コンピュータを使って、収集したデータを適切に処理し、文書を作成することができる。	
3. 思考・判断	3-1	必要な情報を収集・整理し、あらたな問題を発見することができる。	
	3-2	問題に対する解決策を立案し、実行することができる。	
	3-3	身の回りの様々な現象を既有的専門知識と結びつけて分析的・論理的に考えることができる。	
4. 態度・志向性	4-1	社会環境および人間関係における課題を自ら発見し、解決しようとする積極的な姿勢をもつ。	
	4-2	個人および個人と他者との関係に関心を持ち、多様な場面において人との関係づくりができる。	
	4-3	社会の一員としての役割を見だし、人を援助することができる。	
		<p>本学科（心理コース）では、所定の授業科目を修得することで、認定心理士資格および認定心理士（心理調査）資格の申請が可能になる教育課程を編成します。</p> <p>本学科（社会福祉コース）では、所定の授業科目を修得することで、社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験受験資格を得ることができる教育課程を編成します。</p> <p>教育課程では、講義のみならず、個別発表やグループディスカッション、実践的演習といった教育方法を活用し、主体的な学修を通じた理解を高めます。</p> <p>教育課程の評価については、卒業年次に提出する卒業論文、3年次に実施される卒業論文中間報告会と卒業年次に実施される卒業論文最終審査会での発表内容および質疑応答をもって、教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。</p>	